

No. 1322

“人づくり”へ協力推進

— UNCTAD 総会 —

連日35度を越すフィリピン、マニラ市。華やかに飾りをつけた乗り合いバスが行きかう。キャンデー売りの姿もみえる。UNCTAD. V (第5回国連貿易開発会議) に出席のため、5月9日、大平総理、園田外務大臣一行はマニラ市を訪れた。大平総理は10日午前、マルコス大統領と会談、ひき続いて、新しい日比友好通商航海条約の調印式に出席、午後から国際会議センターで開かれているUNCTADマニラ総会の本会議で約30分にわたる英語の演説を行った。この中で首相は「わが国も世界経済発展のために積極的に貢献しなければならない時代が来た」と責任と役割を果たす決意を表明、また“人づくり”のための協力をおしまないことを訴えた。

海の観閲式

200カイリ時代の海の守りにあたる海上保安庁の観閲式が5月13日、羽田沖の東京湾で行われました。式には全国11管区から21隻の巡視船、7機の航空機が参加、海上に華やかなパレードを繰り広げました。今回は昨年から配備されたヘリコプターとう載型巡視船「そうや」と「つがる」、1,000トン型巡視船「しれとこ」「やひこ」が純白のペンキも彩やかに初参加、注目を集めました。この日の観閲官、森山運輸大臣、高橋海上保安庁長官が新装「そうや」の甲板から次々に観閲。空からは航空機が観閲飛行。つづいて小型タンカーが座礁し、多量の油が流出したという想定で行われた流出油防除演習。日頃の訓練の成果が披露されます。海上保安庁自慢の特殊救難隊による人命救助演習。新造船「つがる」からヘリコプターが飛びたち演習に参加。実践さながらの演習が展開されます。「たかとう」「ひりゅう」「おとわ」3隻の消防艇による消火演習。近代技術の威力をいかに発揮します。海上保安庁が誕生してから今年で31年。世界の海は200カイリ時代に入りますます緊張を深めています。海上保安庁の活躍が期待されます。